

## 児童期の描画能力の発達

真鍋 かおり\*<sup>1</sup> 山本 真由美\*<sup>2</sup>

**The drawing development in childhood**  
Kaori MANABE\*<sup>1</sup> Mayumi YAMAMOTO\*<sup>2</sup>

### Abstract

The purpose of this study is to examine the utility of Draw-A-Man (DAM) test from first to sixth grade children. DAM evaluates the ability of each child. DAM was re-standardized in Japan in 1965. Since more than 40 years have passed, physical and psychological environments surrounding children have changed greatly. 678 children aged 6:5-12:5 years were asked to draw a picture of boy using the method of the DAM test.

As a result of this study, three points became clear. First, DAM was useful to examine the measure of development ability from first to third grade children. Second, there is a great difference in ability among same grade children. Finally, the intelligence quotients of girls were higher than that of boys in DAM.

**Keywords:** Draw-A-Man test, human figure drawing, drawing development, childhood

### はじめに

近年、学校社会では子どものさまざまな問題行動—例えば、授業中教室を飛び出す、先生の話を聞かずに話し続ける、集中力がないなど—が増え続けている。このような状況の中でそれぞれの子どものニーズに対応した教育的取り組みの必要性が叫ばれている。特別支援教育とは、従来の特殊教育対象の障害だけでなく、軽度発達障害 (LD, AD/HD, 高機能自閉症など) を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向け、その一人ひとりの教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものであると規定されている (文部科学省, 2005) 注<sup>1</sup>。このような多様な子どもの教育的ニーズを知るためには、個々の子ど

\*<sup>1</sup> 鳴門教育大学大学院学校教育研究科学校教育専攻 (臨床心理士養成コース) Clinical Studies and Practice of Education, Graduate School of Education, Naruto University of Education

\*<sup>2</sup> 徳島大学総合科学部 Faculty of Integrated Arts and Sciences, The University of Tokushima

注<sup>1</sup> 2007年3月に文部科学省は、今後「軽度発達障害」の表記は用いず、「発達障害」と表記するとした ([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/main/002.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/002.htm))

もの能力を把握する必要がある。

子どもの能力を把握する一つの方法として描画法がある。描画法は、絵を描いている本人にはその目的が分かりにくく、検査に対する抵抗は少ないと言われている。幼児期から児童期にかけての描画は発達的に4段階に分類できる。第1段階は3歳までであり、「掻画期」と呼ばれ、いわゆるなぐり描きの時期であり、紙の上に偶然描いた線に後になって意味づけをするような段階である。第2段階は3～4歳であり、「誤った写実性期」と言われる。対象を意図的に描こうとするが、それを実現する運動機能の獲得が不十分であったり、注意の範囲が狭く、持続時間も短かったり、要素間の相対的大きさや位置関係を考慮できなかったりするため、写実的表現に結びつかない段階である。第3段階は5～7、8歳であり、「知的写実性期・観念画期」と呼ばれる。この段階は要素が相互に関連づけられて描かれるようになるが、観察した物よりも知っている通りに描出する段階である。第4段階は8、9歳以降であり、「写実画期」と呼ばれ、現実世界を実際に見たとおりに描くようになる。

児童の行動上の変化を描画から研究したものがある。三沢(2002)は、1981年と1997～99年の小学生のS-HTP画を比較し、攻撃的・破壊的な絵が1997～99年で増加していること、1981年の描画では1つつ丁寧描出され、それぞれに実在感があり、多様な描き方になっているの 비해、1997～99年では描かれているものの数は多いが、全体が記号的で空疎な印象を受けることを報告している。従来、小学校4年生で「知的写実性・観念画」から「写実画」へ変化し、1981年の描画ではその変化が見られたのに対し、1997～99年では4年生以降で描画発達が停滞し、「写実画期」に入らず、「知的写実性期・観念画期」に留まっていると述べている。

人物画は性格検査、知能検査として用いられる。知能検査としてはグッドイナフによるDraw-A-Man Test (以下DAM)がある。これは一人ないし二人の人物像を描くというもので比較的簡便に短時間で行える検査であり、信頼性・妥当性の比較的高い検査として臨床的にも有用であるといわれている。人物画を知能検査として利用するのは、対象年齢が幼児期から学齢期にかけてである。この時期では、人物画は個人差よりも発達過程による明細化、統合化などの変化が明白だからである。DAMでは3～9歳でグッドイナフによって提案された項目の通過率は発達段階に従って上昇している。DAMは基本的には非言語性の検査で視覚-運動系の発達段階をとらえようとするものである。ウェクスラー式知能検査の分類で言えば、DAMは動作性のテストといえる。

本研究では、小学校において個々の子どもの能力を知るためにDAMが有用であるかどうかを検討することを目的とした。現在使用されているDAMは、1965年に小林ら(1977)が再標準化したものである。再標準化から40年余が経過し、子どもを取り巻く物理的・心理的環境が大きく変化している。そこで、小林らが再標準化した基準が有用であるかどうかを検討するために小学校1～6年生を対象としDAMを実施した。

## 方 法

### 1. 対象児童

A県B小学校に在籍する1～6年生の全児童を対象とした。総児童数は678名である。学年・年齢別性別内訳人数は表1に示す通りである。

表 1 学年・年齢・性別内訳人数

学年	年齢段階	男児	女児	合計
1年生	6:5~7:5	49	52	101
2年生	7:5~8:5	52	52	104
3年生	8:5~9:5	61	58	119
4年生	9:5~10:5	62	58	120
5年生	10:5~11:5	61	58	119
6年生	11:5~12:5	54	61	115
合計		339	339	678

## 2. 実施日

2007 年 9 月 13 日に実施した。

## 3. 施行法

集団検査で実施した。1 クラス 1 授業時間を使用し、1~2 名の検査者で行った。検査者のうち 1 名が実施者となり、児童に B4 版画用紙を配付した後、鉛筆・消しゴムを持っていない児童を確認し、持っていない児童には、B の鉛筆・消しゴムを配付した。画用紙の右上に出席番号を書いてもらった後、「男の人をひとり描いてください。頭から足の先まで全身を描いてください。他の人の絵は見ないようにしてください」と教示した。なお、描画時間の制限はしなかった。

## 4. 採点および整理方法

採点基準は小林 (1977) のものを用いた。採点項目は資料 1 のとおりである。各項目の基準を満たしていれば、1 つの項目につき 1 点を与え、その合計点が個人の得点となる。その得点を資料 2 と照らし合わせ、精神年齢が算出される。採点結果をできるだけ客観的なものにするために、4~5 名の採点者が各描画を個別に採点し、採点の異なった項目については、採点者同士で更に検討を重ねた。全体の一致率は 80.21%、SD は 5.25 であった。各項目の通過率は、対象者の生活年齢を学年毎にまとめ、学年段階毎に算出した。

## 結 果

### 1. 学年毎の生活年齢と精神年齢の変化

表 2 は、学年別に児童の生活年齢、発達 (以下、精神) 年齢および発達 (以下、知能) 指数を示したものである。

小学校 1~3 年生は知能指数が平均であり、小学校 4 年生以降は知能指数が下降している。精神年齢の上昇は小学校 3 年生以降、鈍っている。また、どの学年も知能指数のばらつきは大きくなっていった。

表 2 学年別生活年齢と精神年齢および知能指数

	生活年齢(月齢)		精神年齢(月齢)		知能指数	
	平均	最高-最低	平均	最高-最低	平均	最高-最低
1年生	83.67	89-78	82.98	110-37	99	124-46
2年生	95.05	101-89	95.00	150-67	100	167-69
3年生	106.74	113-101	97.00	150-67	91	147-66
4年生	119.13	125-113	99.72	150-37	84	124-30
5年生	130.62	137-126	103.00	150-52	79	116-39
6年生	143.34	149-137	109.33	150-76	76	110-51

## 2. 学年毎の採点項目の通過率について

学年別の採点項目の通過率を表3に示した。1年生では43/50項目の描出があり、70%以上の児童が描くことができた項目は、1.頭、2.眼、3.胴、4.脚、5.口、6.腕、7.毛髪A、8.胴の長さ、9.鼻、10.腕・脚のつけ方A、12.衣服、16.指、19.衣服の2つ以上、22.耳の14項目であった。小林の結果では、描出項目数は44/50であり、15項目であり、数ではほとんど変化がない。

2年生では、45/50項目の描出があり、70%以上の児童が描くことができた項目は、19項目であった。1年生時の項目に加えて描出できるようになったのは14.首、17.首の輪郭、26.衣服の全部、32.指の数の4項目である。14.首の描出がなされるようになり、胴との分離が表現できていた。小林の結果では47/50項目、25項目であった。

3年生では、47/50項目の描出があり、70%以上の児童が描くことができた項目は、22項目であった。2年生時の項目に加えて描出できるようになったのは11.まゆ・まつ毛、15.腕・脚のつけ方B、20.両眼の瞳の3項目である。11.まゆまたはまつ毛と20.両眼の瞳の出現により、顔が実際の人間に近づいている。40.描線Aは、2年生の84.6%をピークにそれ以上の学年では年々減少している。小林の結果では、49/50項目、23項目であった。

4年生では、47/50項目の描出があり、70%以上の児童が描くことができた項目は、24項目であった。3年生時の項目に加えて描出できるようになったのは21.眼の形、31.胴の輪郭、33.耳の位置と割合の3項目であり、40.描線Aは70%を下回っている。小林の結果では、50/50項目、29項目であった。

5年生では、48/50項目の描出があり、70%以上の児童が描くことができた項目は、25項目であった。4年生時に加えて描出できるようになった項目は、30.目の向きである。小林の結果では、48/50項目、29項目であった。

6年生では、49/50項目の描出があり、70%以上の児童が描くことができた項目は、24項目であった。5年生まで描出することができていた32.指の数は、手を後ろに組んでいるもの、握っている等の描画が増加したことにより減少した。小林の結果では、50/50項目、30項目であった。



表3 学年別の採点項目の通過率(%)

学年	人数	1 頭	2 眼	3 胸	4 脚	5 口	6 腕	7 毛髪A
1年生	101	100.0	99.0	96.0	97.0	97.0	95.0	100.0
2年生	104	100.0	100.0	100.0	99.0	100.0	100.0	99.0
3年生	119	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.2	97.5
4年生	120	100.0	99.2	99.2	99.2	98.3	99.2	99.2
5年生	119	100.0	100.0	98.3	99.2	100.0	99.2	98.3
6年生	115	100.0	100.0	100.0	99.1	100.0	100.0	98.3

学年	8 胸の長さ	9 鼻	10 腕・脚の つけ方A	11 まゆ・ まつ毛	12 衣服	13 毛髪B	14 首	15 腕・脚の つけ方B
1年生	83.2	79.2	87.1	48.5	87.1	13.9	62.4	45.5
2年生	93.3	79.8	93.3	62.5	95.2	20.2	85.6	53.8
3年生	89.1	86.6	94.1	73.1	92.4	30.3	89.9	77.3
4年生	97.5	89.2	97.5	85.0	97.5	10.0	90.0	70.8
5年生	93.3	98.3	96.6	81.5	97.5	11.8	96.6	73.1
6年生	99.1	97.4	98.3	89.6	99.1	25.2	98.3	92.2

学年	16 指	17 首の輪郭	18 脚の割合	19 衣服 2以上	20 両眼の瞳	21 眼の形	22 耳	23 踝
1年生	86.1	62.4	42.6	70.3	44.6	26.7	78.2	3.0
2年生	93.3	85.6	38.5	87.5	54.8	51.0	75.0	10.6
3年生	91.6	89.1	42.0	88.2	75.6	68.9	73.1	4.2
4年生	92.5	90.0	26.7	90.8	76.7	76.7	85.0	8.3
5年生	91.6	96.6	26.1	94.1	90.8	89.1	85.7	9.2
6年生	79.1	98.3	18.3	95.7	93.0	92.2	75.7	20.9

学年	24 足の割合	25 頭の輪郭	26 衣服の 全部	27 腕の割合	28 指の細部	29 頭の割合	30 眼の向き	31 胸の輪郭
1年生	18.8	2.0	50.5	24.8	11.9	2.0	26.7	43.6
2年生	36.5	20.2	71.2	44.2	32.7	3.8	46.2	62.5
3年生	31.1	9.2	83.2	42.0	36.1	0.8	65.5	65.5
4年生	26.7	13.3	89.2	32.5	46.7	6.7	65.8	74.2
5年生	35.3	7.6	91.6	38.7	57.1	5.0	79.0	68.9
6年生	43.5	34.8	89.6	40.9	66.1	8.7	76.5	87.8

学年	32 指の数	33 耳の位置 と割合	34 腕・足 の輪郭	35 肩	36 肩・腕脇 の関節	37 顎と額	38 掌	39 衣服 4以上
1年生	50.5	31.7	18.8	13.9	—	13.9	8.9	10.8
2年生	79.8	51.0	23.1	20.1	3.8	11.5	14.4	26.0
3年生	74.8	45.4	34.5	26.1	11.8	17.6	6.7	34.5
4年生	81.7	76.7	30.8	42.5	5.0	20.0	5.0	43.3
5年生	86.6	83.2	39.5	55.5	17.6	14.3	8.4	50.4
6年生	67.8	73.9	69.6	68.7	14.8	28.7	20.0	47.8

表 3 学年別の採点項目の通過率(%) (続き)

学年	40 描線A	41 脚の関節	42 鼻・口 の輪郭	43 横向きA	44 鼻孔	45 顔貌	46 顎の突出	47 衣服の 種類完成
1年生	69.3	—	4.0	—	11.9	—	—	1.0
2年生	84.6	—	10.6	—	24.0	21.2	—	2.9
3年生	77.3	0.8	23.5	—	43.7	7.6	0.8	1.7
4年生	55.0	1.7	43.3	—	49.2	11.7	1.7	1.7
5年生	40.3	2.5	53.8	0.8	63.9	10.1	—	0.8
6年生	34.8	7.8	50.4	0.9	47.8	20.9	4.3	1.7

学年	48 拇指 の分化	49 横向きB	50 描線B	得点	SD
1年生	3.0	—	—	20.33	5.67
2年生	2.9	—	—	24.71	5.45
3年生	1.7	—	—	16.04	5.42
4年生	1.7	—	—	27.04	5.58
5年生	5.0	0.8	—	28.44	4.39
6年生	9.6	—	0.9	29.88	4.59

(注)通過率が70%を超えるものについては網掛けで示した。

### 3. 精神年齢変化

精神年齢に学年別差があるかどうかを一元配置分散分析によって検討したところ、有意差がみられた ( $F(5, 672) = 32.943, p < .01$ )。さらに Tukey 法による多重比較の結果 (図 1), 1年生は2年生から6年生までのすべての学年間において有意差が認められた ( $p < .01$ )。

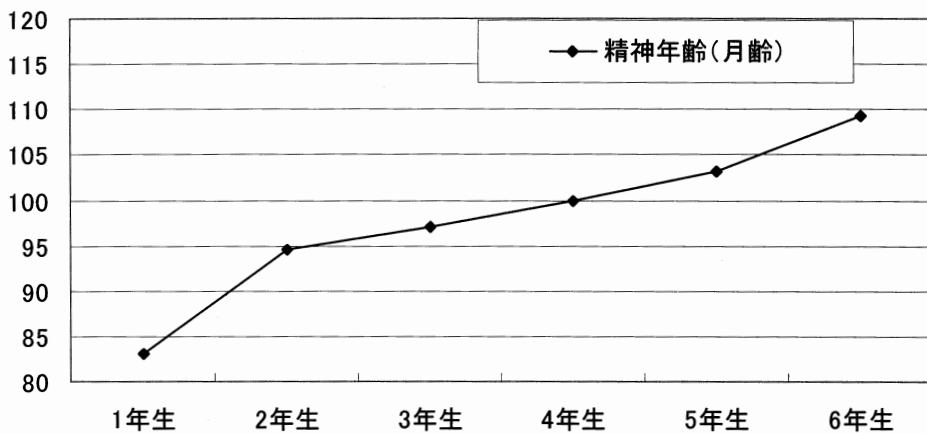


図1. 学年別精神年齢

2年生は5年生、6年生との間で有意差が認められた ( $p < .01$ )。3年生は5年生、6年生との間で有意差が認められた ( $p < .05$  :  $p < .01$ )。4年生は6年生との間で有意差が認められた ( $p < .01$ )。2年生、3年生、4年生の間には有意差は認められなかった。

#### 4. 性差について

表4は、男女別 DAM 得点の t 検定の結果を示したものである。5年生以外は有意な性差が見られた。

男児の学年別採点項目別通過率を表5に、女児の学年別採点項目別通過率を表6に示した。1年生男児は41/50項目の描出があり、女児は43/50項目であった。70%以上の描出があったのは、男児が13項目、女児が16項目であった。

2年生男児は45/50項目の描出があり、女児は、44/50項目であった。70%以上の描出があったのは、男児が16項目、女児が22項目であった。

3年生男児・女児共に45/50項目の描出があり、70%以上の描出があったのは、男児が18項目、女児が21項目であった。

4年生男児は45/50項目の描出があり、女児は47/50項目であった。70%以上の描出があったのは、男児が21項目、女児が24項目であった。

5年生男児は45/50項目の描出があり、女児は48/50項目であった。70%以上の描出があったのは、男児が24項目、女児が25項目であった。

6年生男児・女児共に48/50項目の描出があり、70%以上の描出があったのは、男児が24項目、女児が25項目であった。

DAM得点について5年生以外では女児の方が男児よりも高いという結果になった。

表4 男児と女児の DAM 得点の t 検定結果

	男児		女児		t 値
	平均	SD	平均	SD	
1年生	18.73	4.07	21.83	6.54	2.832**
2年生	23.31	5.71	26.12	4.83	2.708**
3年生	23.95	5.25	28.24	4.70	4.685**
4年生	25.56	5.28	28.62	5.51	3.013**
5年生	28.67	4.49	28.19	4.31	0.597n.s.
6年生	28.20	4.59	31.36	3.99	3.906**

\*\* :  $p < .01$

表5 男女別の採点項目の通過率(%) (男児)

学年	人数	1 頭	2 眼	3 胸	4 脚	5 口	6 腕	7 毛髪A
1年生	49	100.0	99.0	98.0	100.0	98.0	100.0	100.0
2年生	52	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	98.1
3年生	61	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	98.4	96.7
4年生	62	100.0	100.0	100.0	100.0	98.4	100.0	100.0
5年生	61	100.0	100.0	98.4	100.0	100.0	100.0	96.7
6年生	54	100.0	100.0	100.0	98.1	100.0	100.0	98.1

学年	8 胸の長さ	9 鼻	10 腕・脚の つけ方A	11 まゆ・ まつ毛	12 衣服	13 毛髪B	14 首	15 腕・脚の つけ方B
1年生	75.5	83.7	95.9	49.0	83.7	4.1	59.2	32.7
2年生	86.5	76.9	98.1	53.8	92.3	21.2	86.5	44.2
3年生	85.2	82.0	91.8	65.6	86.9	16.4	86.9	62.3
4年生	96.8	91.9	98.4	88.7	96.8	6.5	83.9	51.6
5年生	93.4	96.7	96.7	78.7	98.4	14.8	95.1	72.1
6年生	98.1	94.4	96.3	85.2	98.1	11.1	96.3	85.2

学年	16 指	17 首の輪郭	18 脚の割合	19 衣服 2以上	20 両眼の瞳	21 眼の形	22 耳	23 踝
1年生	91.8	59.2	40.8	53.1	53.1	24.5	77.6	2.0
2年生	88.5	86.5	42.3	78.8	57.7	46.2	65.4	11.5
3年生	96.7	85.2	44.3	80.3	72.1	60.7	68.9	1.6
4年生	96.8	83.9	25.8	83.9	80.6	69.4	80.6	3.2
5年生	88.5	95.1	26.2	96.7	91.8	90.2	85.2	8.2
6年生	87.0	96.3	14.8	90.7	92.6	88.9	64.8	16.7

学年	24 足の割合	25 頭の輪郭	26 衣服の 全部	27 腕の割合	28 指の細部	29 頭の割合	30 眼の向き	31 胸の輪郭
1年生	14.3	2.0	24.5	12.2	8.2	2.0	32.7	18.4
2年生	11.5	15.4	53.8	46.2	21.2	5.8	50.0	42.3
3年生	27.9	6.6	70.5	41.0	32.8	1.6	59.0	45.9
4年生	18.4	4.8	80.6	33.9	41.9	11.3	64.5	54.8
5年生	42.6	9.8	93.4	31.1	52.5	4.9	85.2	67.2
6年生	65.2	22.2	79.6	33.3	72.2	9.3	70.4	79.6

学年	32 指の数	33 耳の位置 と割合	34 腕・足 の輪郭	35 肩	36 肩・腕脇 の関節	37 顎と額	38 掌	39 衣服 4以上
1年生	53.1	10.2	10.2	6.1	—	12.2	8.2	10.2
2年生	69.2	36.5	28.8	21.2	5.8	9.6	21.2	15.4
3年生	73.8	34.4	26.2	18.0	9.8	16.4	4.9	18.0
4年生	82.3	71.0	21.0	21.0	1.6	22.6	6.5	27.4
5年生	85.2	85.2	47.5	62.3	26.2	14.8	6.6	41.0
6年生	70.4	63.0	59.3	50.0	9.3	29.6	16.7	31.5



表5 男女別の採点項目の通過率(%) (男児)(続き)

学年	40 描線A	41 脚の関節	42 鼻・口 の輪郭	43 横向きA	44 鼻孔	45 顔貌	46 顎の突出	47 衣服の 種類完成
1年生	57.1	—	2.0	—	14.3	—	—	—
2年生	78.8	—	9.6	—	23.1	9.6	—	3.8
3年生	67.2	1.6	9.8	—	44.3	1.6	—	—
4年生	50.0	—	37.1	—	59.7	4.8	1.6	—
5年生	41.0	1.6	59.0	—	67.2	14.8	—	—
6年生	35.2	7.4	46.3	1.9	53.7	13.0	7.4	1.9

学年	48 拇指 の分化	49 横向きB	50 描線B
1年生	—	—	—
2年生	5.8	—	—
3年生	1.6	—	—
4年生	1.6	—	—
5年生	4.9	—	—
6年生	9.3	—	—

表6 男女別の採点項目の通過率(%) (女児)

学年	人数	1 頭	2 眼	3 胸	4 脚	5 口	6 腕	7 毛髪A
1年生	52	100.0	98.1	94.2	94.2	96.2	90.4	100.0
2年生	52	100.0	100.0	100.0	98.1	100.0	100.0	100.0
3年生	58	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	98.3
4年生	58	100.0	98.3	98.3	98.3	98.3	98.3	98.3
5年生	58	100.0	100.0	98.3	98.3	100.0	98.3	100.0
6年生	115	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	98.4

学年	8 胸の長さ	9 鼻	10 腕・脚の つけ方A	11 まゆ・ まつ毛	12 衣服	13 毛髪B	14 首	15 腕・脚の つけ方B
1年生	90.4	75.0	78.8	48.1	90.4	23.1	65.4	57.7
2年生	100.0	82.7	88.5	71.2	98.1	19.2	84.6	63.5
3年生	93.1	91.4	96.6	81.0	98.3	44.8	93.1	93.1
4年生	98.3	86.2	96.6	81.0	98.3	13.8	96.6	91.4
5年生	93.1	100.0	96.6	84.5	96.6	8.6	98.3	74.1
6年生	100.0	100.0	100.0	93.4	100.0	37.7	100.0	98.4

表6 男女別の採点項目の通過率(%) (女兒)(続き)

学年	16 指	17 首の輪郭	18 脚の割合	19 衣服 2以上	20 両眼の瞳	21 眼の形	22 耳	23 踝
1年生	80.8	65.4	44.2	86.5	36.5	28.8	78.8	3.8
2年生	86.2	93.1	39.7	96.6	79.3	77.6	77.6	6.9
3年生	93.1	86.2	42.0	88.2	75.6	68.9	73.1	4.2
4年生	87.9	96.6	27.6	98.3	72.4	84.5	89.7	13.8
5年生	94.8	98.3	25.9	91.4	89.7	87.9	86.2	10.3
6年生	72.1	100.0	21.3	100.0	93.4	95.1	85.2	24.6

学年	24 足の割合	25 頭の輪郭	26 衣服の 全部	27 腕の割合	28 指の細部	29 頭の割合	30 眼の向き	31 胸の輪郭
1年生	23.1	1.9	75.0	36.5	15.4	1.9	21.2	67.3
2年生	50.0	25.0	88.5	42.3	44.2	1.9	42.3	82.7
3年生	34.5	12.1	96.6	43.1	39.7	—	72.4	86.2
4年生	34.5	22.4	98.3	31.0	51.7	1.7	67.2	94.8
5年生	27.6	5.2	89.7	46.6	62.1	5.2	72.4	70.7
6年生	50.8	45.9	98.4	47.5	60.7	8.2	82.0	95.1

学年	32 指の数	33 耳の位置 と割合	34 腕・足 の輪郭	35 肩	36 肩・腕脇 の関節	37 顎と額	38 掌	39 衣服 4以上
1年生	53.8	51.9	26.9	21.2	—	15.4	9.6	30.8
2年生	90.4	65.4	17.3	19.2	1.9	13.5	7.7	36.5
3年生	75.9	56.9	43.1	34.5	13.8	19.0	8.6	51.7
4年生	81.0	82.8	41.4	65.5	8.6	17.2	3.4	60.3
5年生	87.9	81.0	31	48.3	8.6	13.8	10.3	60.3
6年生	65.6	83.6	78.7	85.2	19.7	27.9	23.0	62.3

学年	40 描線A	41 脚の関節	42 鼻・口 の輪郭	43 横向きA	44 鼻孔	45 顔貌	46 顎の突出	47 衣服の 種類完成
1年生	80.8	—	5.8	—	9.6	—	—	1.9
2年生	90.4	—	11.5	—	25.0	32.7	—	1.9
3年生	87.9	—	37.9	—	43.1	13.8	1.7	3.4
4年生	60.3	3.4	50.0	—	37.9	19.0	1.7	3.4
5年生	39.7	3.4	48.3	1.7	60.3	5.2	—	1.7
6年生	34.4	8.2	54.1	—	42.6	27.9	1.6	1.6

学年	48 拇指 の分化	49 横向きB	50 描線B
1年生	5.8	—	—
2年生	—	—	—
3年生	1.7	—	—
4年生	1.7	—	—
5年生	5.2	1.7	—
6年生	9.8	—	1.6

## 考 察

本研究では、小学生に DAM を実施して、小林 (1977) が 40 余年前に定めた基準の有用性を検討することが目的であった。DAM の有用性、発達的变化、性差の順に考察を行った。

### DAM の有用性

DAM は理論的には 12 歳 6 ヶ月までの描画を検査することができるが、実際には、9 歳を越えると描画の表現の仕方が複雑化したり、簡略化したりするため、発達尺度としての利用はほとんど期待できないとされている (小林, 1977)。本研究では、9 歳をむかえるまでの 3 学年は、小林の結果と差がなく、DAM の有用性が証明された。

DAM は 1965 年に小林らにより再標準化された人物画検査であり、様々な環境変化や時間経過から、現在の結果を小林らの基準によって評価するのであれば差が生じるのではないかと仮説していた。しかし、DAM が有用であるとされる 3 年生以下の発達指数は 91～100 であり、仮説は検証されなかった。

現在の特徴として、表 2 から明らかなようにどの学年を見ても、知能指数のばらつきが大きく、同一学年児童の能力差は想像以上に大きいものであることが分かった。近年の学校現場における問題の 1 つとして「学級崩壊」があるが、同一学年でのばらつきの大きさが原因の 1 つかもしれない。特別支援教育では、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援によって個々の子どもの力を育む教育である。本研究の結果から明らかになった個人差のばらつきの大きさから個人のニーズを把握し、児童を指導していくことは非常に重要であると言える。

### 発達的变化

#### ①量的変化

DAM の限界は先に述べたとおりであるが、学年が上がるにつれて描画を構成する要素は増加している。学年毎の描画項目数、通過率 70% 以上の項目数は小林 (1977) とほぼ同様であった。精神年齢を学年毎に比較した結果、2 年生、3 年生、4 年生では有意な発達差が見出せなかった。これは三沢 (2002) が小学校 4 年生以降は描画の発達が停滞しているという報告と同様の傾向である。

#### ②質的变化

学年の上昇に伴い、以前は描出されていた項目が描かれなくなることがある (今給黎ら, 2006)。本研究でも低学年時では描出されていた「40. 描線 A」は高学年になるにつれて減少の一途をたどっている。これは、描画がデッサン風に変化を遂げたからではないかと考えられる。

衣服の描かれていない描画は 6 年生では 1% 以下まで低下した。大学生の人物画では衣服のない人物画が全体の約 19% にのぼる (清藤・空井, 1998) との報告もあり、一旦描出された項目が逆に年齢が高くなるにつれて描出されなくなるといった変化も見られる。

また、低学年、高学年に関係なく目が弧で描かれているなど漫画のキャラクターのような人物画、米粒のような大きさの人物画、身体のバランスが著しく崩れた人物画などが見られた。人物そのものよりも、衣服などの装飾にこだわった描画も見られた。人物に適切な大きさ、実感が無い描画について三沢 (2002) は現実におけるさまざまな実体験が不足し、現実感が十分の育っていないからではないかと述べている。人物画については量的変

化だけではなく、質的变化についても検討する必要がある。

#### 性差について

グッドイナフは DAM で性差を認めているが、ハリスや桐原は DAM では性差は認められないとしている (小林, 1977)。本研究では、5年生を除く全ての学年において女兒の方が男児よりも得点が高かった。

3歳から5歳までの幼児を対象者として DAM を実施した今給黎ら (2006) は、男児よりも女兒の方が細かな部分の描写ができており、女兒が描出することができた項目も男児よりも多いと報告している。本研究においては、描出のできた項目についての性差は幼児期ほど明確でないが、70%以上の児童が描出できる項目については、どの学年も女兒の方が多いという結果となり、今給黎ら (2006) の結果を支持するものであった。

以上のことから、女兒は人物画を構成する要素の獲得が男児よりも早いと考えられる。

小学生に DAM を実施して、小林 (1977) が 40 余年前に定めた基準の有用性を検討した結果、小林 (1977) の DAM の採点基準は、小学校 3 年生までの児童の発達の程度を調べるという目的では有用であること、学年内での個人差が大きいことが明らかになった。また、女兒の方が男児よりも知能指数が高いことも明らかになった。

子どもの知的能力を簡便に短時間で知るために DAM は有用であると言える。DAM から個々の子どもの能力を評価し、支援の方法を考えることは特別支援教育の一助となる。

知的レベルを分類して DAM の結果を検討すること、行動上の問題を有する児童の人物画と行動との関係を検討することなどが今後の課題である。

#### 引用文献

今給黎貞子・藤原雅子・安川千代・松山光生・山田弘幸・倉内紀子・笠井新一郎 2006 健常児の人物画の発達 九州保健福祉大学研究紀要, 7, 153 - 159

清藤理恵・空井健三 1998 人物画からみた現代大学生の心的特性の変遷 中京大学文学部紀要, 33, 97 - 108

小林重雄 1977 グッドイナフ人物画知能検査ハンドブック 三京房

三沢直子 2002 描画テストに表れた子どもの心の危機—S-HTP における 1981 年と 1997 ~99 年の比較 誠信書房

文部科学省 2005 特別支援教育を推進するための制度の在り方について (答申) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo0/toushin/05120801.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo0/toushin/05120801.htm) 2006. 11. 4

#### 謝 辞

本研究にご協力いただきました小学校の児童・教員の方々、評定に参加して下さった皆様に記して謝意を表します。



資料 1-1 採点基準表

No.	項目	要領	No.	項目	要領
1	頭	頭が描いてあれば、どんな形でもよい。頭の輪郭がなければ点にならない。	18	脚の割合	脚の長さが胴より長く、胴の長さの2倍以下で、脚の幅が長さより小(長い方の脚で割合は算出される)。
2	眼	1つでも2つでも眼が描いてあればよい。眼らしいものでよい。	19	衣服 2以上	衣服を示すものが2つ以上描いてあること。たとえば帽子とベルト、上衣と靴など透明でなく、明確に身体を被うように描いてあること(連続線で身体が衣服か不明のものは-)。
3	胴	胴があること、どんな形でもよい。横についていてもよい。	20	両眼の瞳	瞳があること(両眼あれば両眼とも存すること)。
4	脚	脚があること。2本あることが必要。2本が密着していることがはっきりしているときは1本でもよい(2本以上4本以下)。	21	眼の形	眼の横の長さが、縦の幅より大きいこと(両眼あれば両眼と)にかく耳があればよい(腕と混同しないことが必要)。
5	口	どんな形でも、また場所はどこでも、口が描いてあること。	22	耳	とにかく耳があればよい(腕と混同しないことが必要)。
6	腕	腕があること。2本あることが必要。指はなくてよい。	23	踵	とくに踵が描いてあるもの(靴のヒールが描いてあればよい。前向きの場合、靴が正しく描いてあれば+)。
7	毛髪 A	髪の毛がどんな形でもあればよい(1本でもよい)。	24	足の割合	足と脚が輪郭をもって描かれ、足の長さは足のひらから甲までの高さより長いこと。そして足の長さが脚の全長の1/3以下、1/10以上のもの。
8	胴の長さ	胴の長さが幅より大きいこと。両者が同じでは点にならない。また輪郭がなくてはいけない。縦・横の最長部で比較する。	25	頭の輪郭	頭の輪郭が単純な楕円、丸、四角、三角でなく、明確に頭の形に描いてあること。
9	鼻	鼻が描いてあること。(鼻孔のみのときも+。したがって No. 9 および No. 44 共に+)	26	衣服の全部	衣服がそろって、透明でなく描いてあること。上衣とズボンが必要。No. 12 および No. 19 が共に+であること。
10	腕と脚のつけ方 A	腕と脚のつけ方がほぼ正しいこと。すなわち両脚両腕が胴から出ている。(胴からでていればよい)。	27	腕の割合	腕の長さが胴と同じ長さ以上で、膝まで達していないこと(膝は不明の場合、脚の midpoint とする。腕の左右の長さが異なる場合は長い方を採用する)。
11	まゆまたはまつ毛	まゆかまつ毛、またはその両方が描いてあること。	28	指の細部	指の細部を正しく描いていることすなわち描いてある全指が輪郭があって、長さが幅より大であること。2本の指のなす角が180°以内のこと。ここでは、指の描き方だけが問題であるから、数は5本なくてもよい(1本でも条件に合わないものがあれば-となる)。
12	衣服	衣服があること。裸ではないことがわかりさえすれば、釦やポケット・バンドなどが示されるだけでよい。首と分離した胴体だけでは-。腕が袖から出ていた場合+。ズボンが判れば+。	29	頭の割合	頭的面積が胴の半分以下で1/10以上のもの。
13	毛髪 B	頭の輪郭の上に描いたり、植えたようなものより進んで、頭皮の出していないこと。	30	眼の向き	瞳の位置が両眼一致していること(No. 20 が+であること)。
14	首	頭および胴と区別されるべき頭の部分があること。	31	胴の輪郭	胴について No. 25 と同様の基準で検討する(単純な円、楕円、四角でなく何らかの意図があること)。
15	腕と脚のつけ方 B	腕は両方とも肩、または肩にあたる場所についていること。脚は胴の下から出ていること(両脚とも)。			
16	指	どんな形でもよい。とにかく指が描いてあればよい。			
17	首の輪郭	首の輪郭がはっきりと描出されていること。No. 14 の場合は線でもよいが、No. 17 では輪郭が必要(頭部または胴体のどちらかに線が連続していること)。			

資料 1-2 採点基準表

No.	項目	要領	No.	項目	要領
32	指の数	指の数が正しく5本描いてあるもの(両方の手共)。	46	顎の突出	顎がはっきりあらわされているもの。横向きなら突出し、正面図なら唇の下に顔の輪郭と区別して顎が描かれていること。
33	耳の位置と割合	耳の長さが幅より大きく、横向きなら中央に孔があつて、位置は頭の横径の中央2/3以上は出ないこと。	47	衣服の種類完成	衣服が全部揃つていて、不合理なく描いてあること。商売などの明瞭なコスチュームを着ている。
34	腕および脚の輪郭	腕・脚とも輪郭があることはもちろん、ことに腕のつく所で小さくならないこと(No. 16 が+であること)。	48	拇指の分化	拇指が他の指と区別されること。すなわち他の指より短く、位置が正しく描かれていること。
35	肩	肩がはっきりあらわされていること。胴から直接腕の出ているのは不可。角があるとか、丸みを帯びているとかして肩が示されている(No. 15 が+であること)。	49	横向き B	No. 43 よりいっそう進み、眼の形を除く他のすべてのものが揃つて間違いなく横向きに描いてあること。
36	肩あるいは腕脇の関節	肩または腕の関節の片方でも、何らかの形で関節のあることが示されていること(No. 15 および No. 35 が+であること)。	50	描線 B	No. 40 で1点を与え、さらに進んでいるものに1点を与える。すっきりした線、デッサン風になっているもの。
37	顎と額	眼の上、口の下にそれぞれ額・顎に相当する広さのあること(横向き…輪郭が存すればよい。正面向き…まゆと髪の間隔または口の下部から末端部までの間隔があること)。			
38	掌	掌が指、および腕と区別して描いてあるもの。			
39	衣服の部分4つ以上	衣服の部分、たとえば帽子、靴、上衣、ネクタイ、ベルト、紐、釦、靴下、足袋、下駄などが4つ以上描いてあればよい。			
40	描線 A	描いた線が、しっかりしていて接続すべきところは接続し、途中で無用の交叉をしたり、重複したり、空隙を残したりしていないもの。			
41	脚の関節	膝または股(もちろん両方共でもよい)で関節の存在が示されていること(例:走っているところ)。			
42	鼻と口の輪郭	鼻と口とが輪郭があり、口には上唇と下唇があること。直線、円、四角の鼻は不可)。			
43	横向き A	横向きの場合で、頭、胴、および足が正しく描いてあること。			
44	鼻孔	鼻の孔が描いてあること。鼻孔だけでもよい。横向きの場合‘ひっかけり’があればよい。			
45	顔貌	顔が左右対称に描かれ、眼、耳、口、鼻など輪郭のあることはもちろん対称に描かれていること(バランスのよいこと)。横向きなら、眼の長さや頭の大きさの割合が整っていること。			

資料2 精神年齢換算表

得点	精神年齢
3	3:01
4	3:06
5	3:08
6	3:10
7	4:01
8	4:04
9	4:08
10	4:10
11	4:11
12	5:01
13	5:07
14	5:09
15	5:11
16	6:01
17	6:04
18	6:08
19	6:09
20	6:11
21	7:01
22	7:03
23	7:05
24	7:08
25	7:09
26	7:11
27	8:01
28	8:03
29	8:05
30	8:08
31	8:11
32	9:02
33	9:07
34	10:06
35	11:06
36	12:06

